

(仮訳)

プレス・リリース

2020年11月18日

金融安定理事会は破綻処理準備態勢の必要性を強調

FSB（金融安定理事会）は、本日、「2020年破綻処理改革の実施に関する報告書」を公表した。本報告書では、システム上重要な金融機関の破綻処理可能性を向上させるための政策措置の実施状況をアップデートし、破綻処理準備態勢の必要性を強調している。また、新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」）のパンデミックから得られた教訓についても論じており、清算機関（CCP）に関するものを含む破綻処理可能性についての継続中の取組みの重要性が確認された。

銀行 — グローバルなシステム上重要な銀行（G-SIB）は、外部総損失吸収力（TLAC）の2022年の最終的な最低要件を既に満たしていると見込まれる。TLAC適格債の発行は新型コロナのパンデミックの厳しい環境下でも継続されており、市場はこれまでのところ問題なくTLAC適格債の発行を吸収している。G-SIBによる外部TLAC水準の開示は、過去1年間で改善してきた。しかし、銀行グループ内のTLACの配賦について、市場参加者が入手できる情報はまだ少ない。これらのリソースの管理、配賦、移転可能性に関する作業は現在進行中である。

CCP — 最近見られた市場の混乱は、清算集中が世界の金融安定にもたらす便益を示した。CPMI（決済・市場インフラ委員会）とIOSCO（証券監督者国際機構）は共同でレビューを実施し、複数の法域でシステム上重要なCCP（SI>1 CCP）として、13のCCPを認定した。ほとんどの当局は、これらのCCPのために危機管理グループ（CMG）を設置し、破綻処理計画の策定を開始している。FSBは、CCPの破綻処理可能性と破綻処理のための財源の十分性に関する議論を支援するため、「CCPの破綻処理財源及び株式の取扱いに関するガイダンス」を公表した。FSB、CPMI、IOSCO及びFSB破綻処理運営グループの議長は、それぞれの会議体でのCCPの財務資源に関する作業において協調するとともに、更なる作業を行うことに合意した。

保険 — FSBは、保険セクターの「主要な特性（Key Attributes）」の実施状況のモニターを継続している。各国の保険会社の破綻処理制度の実施の進捗は鈍化しており、今回の直近のサイクルでは、新規または向上した保険処理枠組みの

最終化などの重要な改革は報告されていない。多くの法域では、再建・破綻処理計画の策定のために、システム上重要な保険会社を特定している。保険会社の破綻処理計画に関する FSB の作業の主要な注目分野は、グループ内の相互関連性と破綻処理時の資金調達である。

(以 上)